

一般社団法人 日本鉱物科学会
2025 年度 第 2 回定例理事会 議事録

【1】 招集年月日: 2026 年 5 月 7 日(木)

【2】 開催年月日及び時刻: 2026 年 5 月 18 日(月) 14 時 00 分~16 時 30 分

【3】 開催場所: 広島大学理学部 井上研究室

739-8526 広島県 東広島市 鏡山 1-3-1

(ZOOM Meeting によるオンライン会議)

【4】 理事総数および定数: 総数 22 名, 定足数 12 名

【5】 出席理事数: 22 名

会 長: 井上 徹

副会長: 中村 美千彦

理 事: 秋澤 紀克, 安東 淳一, 大藤 弘明, 鍵 裕之, 河上 哲生, 栗林 貴弘, 黒沢 正紀,

佐久間 博, 瀬戸 雄介, DAS Kaushik (ダス カウシク), 辻森 樹, 土屋 旬, 富岡 尚敬,

永嶋 真理子, 中野 伸彦, M. Satish-Kumar (マドスーダン・サティッシュ・クマール),

三河内 岳, 芳川 雅子

(途中参加)

片山 郁夫, 森下 知晃

【6】 出席監事: 永井 隆哉

【7】 オブザーバー: (理事以外の幹事, 委員長等報告事項報告者)

出席: 小松 一生 (庶務副幹事, 途中参加), 川野 潤 (会計副幹事)

興野 純 (和文誌編集幹事, 途中参加), 斉藤 哲 (広報幹事),

東野 文子 (Elements 幹事), 福士 圭介 (地球惑星科学連合学会選出プログラム委員・正),

吉田 健太 (日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員長),

奥村 聡 (日本鉱物科学会研究奨励賞審査委員長), 横山 正 (選挙管理委員会委員長)

【8】 議事概要

井上理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり, 安東淳一理事が議長に選出された。次

に、決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い、理事 20 名の出席を確認したので、定款 30 条により理事会が成立した。このことを受け、安東議長は WEB 会議システム(ZOOM Meeting)を利用したオンライン会議としての理事会開会を宣言した。また、WEB 会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し、2025 年度第 2 回定例理事会を開始した。

会議に先立ち、理事の互選で小松一生庶務副幹事ならびに川野潤会計副幹事が書記として選出された。

I. 報告事項

1. 会員報告（阿部会員幹事，代理報告：安東庶務幹事）

安東庶務幹事（阿部会員幹事代理）より、2025 年度第 1 回臨時理事会(2025 年 12 月 1 日)以降の会員動静について以下の通り報告がなされた。

物故会員 1 名（永年会員 1 名），退会者 13 名（一般会員 1 名，学生会員 12 名）

この結果、2025 年 5 月 18 日現在の会員数は

865 名(2025/12/1 臨時理事会)-1 (物故)-13(退会)=851 名

となった。

2. 名誉会員適正総数の確認と報告（阿部会員幹事，代理報告：井上会長）

井上会長（阿部会員幹事代理）より、会員の適正総数は会員総数の概ね 1.5%であり、現会員数 851 名であるため、名誉会員適正総数は約 13 名（ $851 \times 0.015 = 12.8 \div 13$ 名）である旨報告があった。

現状 9 名なので、名誉会員の追加について後程議論する。

3. 広報報告（齊藤広報幹事）

齊藤広報幹事より、広報活動について以下の通り報告がなされた。

1) 会員へのメールニュース送信

事務局猪狩さんから会員向けにメールニュースを送信いただいた。

2) 学会 HP と公式 SNS（Facebook, X), YouTube を通した広報活動。

ホームページに「お知らせ」として、掲載依頼のあった鉱物科学関連情報のほか、公募情報、関連学会情報、新刊紹介などを掲載した。

3) JpGU2026 における現地ブース展示

日本地球惑星科学連合 2026 年大会 JpGU2026（幕張）において、昨年に続き現地ブース展示（学協会ブース）を実施予定。この数年おこなわれていたクイズラリーから、スタンプラリーに変更になったが（そのためクイズの作問は不要になった）、スタンプラリーに参加予定。スタンプラリー参加にはスタンプの準備のほか、景品が 20 個以上提供する必要があるため、それらの準備をおこなった。

4) その他

- ・企業等からの問い合わせへの対応

安東庶務幹事より、広報活動に大変なご尽力をいただいていることへの謝意が伝えられ、それに対し齊藤広報幹事からは、広報の人員を増やして対応できているので少し負担が軽減されているとの言及があった。

4. 和文誌編集報告（興野和文誌幹事）

興野和文誌編集幹事より、2025 年 12 月 1 日～2026 年 5 月 12 日現在までの編集状況について、議事資料に基づき報告がなされた。

1. 編集状況報告（2025 年 12 月 1 日～2026 年 5 月 12 日現在まで）

- (1) 発行状況: 55 巻 1 号電子ジャーナル

(2) 現在受理論文：3 編（受賞記念研究紹介 3 編）

(3) 現在査読中論文：7 編

（総説 [講義シリーズ] 1 編、原著論文 2 編、最近の研究から 1 編、博物館紹介 1 編、日本新産
鉱物情報 1 編、解説資料 1 編）

(4) GKK の投稿論文カテゴリー、高校生の研究論文「ジュニアリサーチノート」の創設について

- ・順調に投稿・出版が進んでいる。

- ・高校生向けのカテゴリーとして「ジュニアリサーチノート」を創設することが報告された。投稿は学会員に限らないこととし、査読ガイドラインも整備して指導的に査読をする。それに伴い、投稿規定も修正することが改めて報告された（前回編集委員会です承済）。

- ・広報担当と協力して、ポスターを JpGU の高校生セッションで配布予定であることが報告された。

ポスターは生成 AI を用いて作成しているが、日本鉱物科学会として公式の HP・配布物に生成 AI を使うことについて、フォントや使用画像についての著作権上の問題がないか、疑義が出された。現段階では判断が難しいため、ポスターの配布・公開方法については継続して検討することとした。

5. 英文誌編集報告（M. Satish-Kumar 英文誌幹事）

Satish-Kumar 英文誌編集幹事より、2025 年 12 月 1 日第 1 回臨時理事会報告以降の JMPS 誌の状況について、議事資料に基づき報告がなされた。

1) 投稿数状況の報告（議事資料参照）

2) 編集状況：

公開準備中：2 件、査読中：8 件、返却中：13 件

3) 発行状況：

・ 120 巻 1 号電子ジャーナル 原著論文 23 編 Review 1 編 Letter 5 編 計 340 頁

・ 121 巻 1 号電子ジャーナル 原著論文 11 編 Letter 2 編 計 164 頁

5) 2024 JMPS Impact Factor: 1.0

(2023⇒0.9 , 2022⇒0.7 , 2021⇒1.041 , 2020⇒0.72 , 2019⇒0.764 , 2018⇒1.472,
2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

6. 行事・年会報告（瀬戸行事幹事）

瀬戸行事幹事より、2026 年度年会（東京大学）の準備状況について報告があった。

- ・ 会期は 2026 年 9 月 24 日～26 日とする。
- ・ 総会は 9 月 25 日午後に開催予定であり、会長改選年にあたるため、総会終了後に理事会を開催する予定である。
- ・ 開催形式は、口頭発表および総会をハイブリッド形式とし、ポスター発表は現地開催のみとする。火山学会との共催セッションはオンライン中継を行う予定である。
- ・ 参加登録費は前年度と同額とする。懇親会費は一般 7,000 円、学生 4,000 円とし、会場の都合により参加者数は 200 名を上限とする。
- ・ 年会ウェブサイト を 3 月 31 日に公開し、4 月 3 日にメールニュースで周知した。
- ・ 企業展示は 6 件を予定しており、前年度より増加している。
- ・ 新たな試みとして、中高生ポスター発表セッションを企画している。
- ・ 託児所を設置予定である。
- ・ 一般普及講演会を実施する予定であるが、巡検は実施しない。
- ・ YMO 企画および岩石鉱物クイズについては現在調整中である。
- ・ 今後、6 月に講演申込受付を開始し、7 月にプログラム編成、8 月上旬にプログラム公開および参加登録受付開始を予定している。

- ・ 年会予算については、収入約 370 万円、支出約 360 万円を見込み、収支均衡を基本とした予算案を作成している。

続いて、鍵 LOC 委員長より、中高生ポスター発表セッションについて説明があった。最終日の 9 月 26 日午後に開催し、高校生・中学生による鉱物科学・地球科学関連分野の研究発表を募集する。参加登録費は無料とし、優れた発表には表彰を行う予定である。また、同日に開催予定の一般普及講演会（担当：浜根会員）や企業展示等にも参加可能とし、若い世代への学会活動の普及を図るとの説明があった。理事に対し、関係する中学校・高等学校への周知協力の依頼があった。

また、瀬戸行事幹事より、2027 年年会は東北大学（仙台市）で開催予定であり、辻森大会運営委員長から LOC 委員会の構成について以下のように報告があった。

日本鉱物科学会年会 2027 年年会

会場：東北大学 川内北キャンパス

日程：2027 年 9 月 15-17 日

運営委員長：辻森樹

運営委員：大柳良介，岡本敦，奥村聡，掛川武，栗林貴弘（会計），坂巻竜也，高橋奈緒子，辻森樹（委員長），中村智樹，中村美千彦，平野直人，松本恵（総務），水野樹

2028 年度

岡山大学 倉吉地区開催で検討している。2 年前の 9 月に理事会で正式決定とのガイドラインに従い、2026 年 9 月開催の理事会で正式決定される。

7. 2025 年度会計中間報告（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、日本鉱物科学会 2025 年度会計収支（2025 年 8 月 1 日から 2026 年 7 月 31 日）に関して、2026 年 4 月 30 日現在における収支状況について別紙資料にある収支表が提示され詳細な説明がなされた。収入については、会費収入率が 83.3%となっており、前年度より納付状況が改善しているが、おそらくクレジットカード決済導入の効果ではないかとの説明があった。また、出版事業については JMPS および GKK とともに概ね予算どおりに執行されていることが報告された。2025

年度山口大会における年会収入は予算額 250 万円に対して約 398 万円となったが、年会は独立会計で運営されていることが説明された。寄付金収入は 38,000 円であった。現時点での経常収益は約 1,161 万円であり、今後の会費収入および GKK 出版収入等を加えると、最終的な収益は約 1,255 万円となる見込みである。

支出については、概ね予算どおりに執行されていることが報告された。

以上の結果、2026 年 4 月 30 日現在において約 244 万円の黒字となっており、年度末には約 200 万円程度の黒字となる見込みであることが説明された。

8. 会長・副会長候補者推薦委員会報告（河上委員長）

河上委員長より、会長・副会長候補者推薦委員会（河上哲生，大藤弘明，辻森樹，富岡尚敬，永畠真理子）において次期会長候補者および副会長候補者について協議した結果について報告があった。

委員会外から、会長候補者 1 名および副会長候補者 1 名の推薦が期限内に提出され、これらの推薦を踏まえて委員会で審議を行った結果、会長候補者として中村美千彦会員（東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学講座 火山学・岩石学），副会長候補者として鍵裕之会員（東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設 地球化学・地球内部物性）を推薦することとした。いずれの候補者からも承諾を得ていることが報告された。

なお、本推薦結果については、2026 年 4 月 21 日に選挙管理委員会へ届け出たことが報告された。

9. 選挙管理委員会報告（横山委員長）

横山委員長より、役員選挙に関する準備状況について報告があった。

期日までに、会長候補者 1 名、副会長候補者 1 名、理事候補者 27 名、監事候補者 1 名の届出があったことが報告された。

また、役員選挙内規に基づき、2026 年 3 月 2 日に選挙公示を行ったことが報告された。今後は、投票期間（2026 年 7 月 8 日～24 日）の開始 30 日前まで候補者等を学会ホームページに公示し、所定の日程に従って選挙を実施する予定であることが説明された。

その他

会計中間報告に関連して、寄付者氏名の取り扱いについて意見交換が行われた。

寄付者の中には氏名の公表を希望しない者もいることから、理事会資料において寄付者名を掲載することの適否について議論が行われた。寄付者の匿名性に配慮すべきとの意見がある一方、学会運営に貢献している寄付者の状況については理事会として把握しておく必要があるとの意見も出された。

議論の結果、今後の理事会資料における寄付者情報の取り扱いについては、富岡会計幹事を中心

に整理・検討を進め、後日改めて理事会へ報告することとなった。

第1号議案 新入会承認（阿部会員幹事、代理報告：安東庶務幹事）

阿部会員幹事の代理として安東庶務幹事より、一般会員2名および学生会員1名の入会申込みに
ついて説明があり、異議なく承認された。

あわせて、会員推移について報告があり、2025年9月12日時点の会員数865名から、物故会員
1名、退会者13名を差し引き、新規入会者3名を加えた結果、2026年5月18日現在の会員数は
854名であることが説明された。

第2号議案 各賞選考委員会報告と審議

(1) 日本鉱物科学会賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：奥地委員長、代理報告：井上会長）

2025年度日本鉱物科学会賞選考委員会の奥地委員長の代理として井上会長より、次の2名の被推
薦者を2025年度日本鉱物科学会賞の第33回ならびに第34回の授賞に値する候補者として会長に
推挙されたことが報告された。

2025年度日本鉱物科学会賞選考委員会委員

奥地 拓生（委員長）、岡本 敦（副委員長）、阿部 なつ江、瀬瀬 佑衣、辻森 樹、Das Kaushik,
瀧川 晶、梶谷 浩、興野 純、瀬戸 雄介、井上 徹（会長）

Madhusoodhan Satish-Kumar 会員（新潟大学理学部）

業績題目：「安定同位体地球化学と岩石学を用いた地球内部物質循環の研究」

太田 健二 会員（東京科学大学理学院地球惑星科学系）

業績題目：「地球惑星物質の超高压力高温下物性測定研究」

(2) 渡邊萬次郎賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：掛川委員長、代理報告：安東庶務幹事）

渡邊萬次郎賞選考委員会掛川委員長の代理として安東庶務幹事より、委員会で慎重に審議し選考
した結果、2025年度 渡邊萬次郎賞受賞候補者として藤野 清志会員を推薦することが報告された。
審議の結果、満場一致で承認された。

(3) 日本鉱物科学会論文賞授賞論文報告と審議（報告：吉田委員長）

日本鉱物科学会論文賞選考委員会 吉田委員長より、委員会による選考ならびに投票の結果、下記 2 編が受賞適格論文として選出されたことが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

- 1) Hikaru TAKAGAKI and Yohei SHIROSE: Listvenite formation by the carbonation of pelitic schist and serpentinite in the Median Tectonic Line shear zone, Urayama River, Ehime Prefecture, Japan
- 2) Masanori YOKOI, Tetsuo KAWAKAMI and Yuka ISHIYAMA: Relative timing of boron-bearing fluid-rock interaction at the subduction interface: an example from the Sanbagawa belt, southwest Japan

審議の結果、上記 2 編を日本鉱物科学会論文賞授賞論文とすることが異議なく承認された。

また、吉田委員長より論文賞選考内規について説明があった。現行内規では、一次投票において一定の得点を得た最大 5 編を対象として二次投票を行うこととしているが、過去 2 年連続で一次投票の段階で受賞基準を満たした論文が 2 編のみであり、実質的にその時点で受賞論文が決定している状況であることが報告された。このため、選考手続きの実態に合わせた内規の見直しを検討することが提案された。

審議の結果、日本鉱物科学会賞の内規見直しと併せて論文賞選考内規の改正を検討することとし、吉田委員長が改正案のたたき台を作成した上で関係者による検討を行い、その後理事会に諮ることとなった。

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞授賞候補者報告と審議（報告：奥村委員長）

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会 奥村委員長より、選考委員会で規定に則った審議の結果、2025 年度日本鉱物科学会研究奨励賞第 39 回ならびに第 40 回受賞候補者として、東野 文子 会員ならびに山本 大貴 会員を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

- 1) 東野 文子 会員（京都大学大学院理学研究科）

研究対象：大陸衝突帯深部における地殻流体活動の時空間発展の解明

- 2) 山本 大貴 会員（九州大学大学院理学研究院）

研究対象：原始太陽系円盤で起こった惑星材料ダストの進化の解明

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：佐久間委員長）

応用鉱物科学賞選考委員会 佐久間委員長より、選考委員会での審議の結果、2025 年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第 18 回受賞候補者として遊佐 斉 氏を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

遊佐 斉 氏(国立研究開発法人 物質・材料研究機構)

業績題目：放射光を用いた超高圧実験技術の開発とその新規機能性材料物質の探索・合成および
圧力誘起相転移の系統性解明への応用

(6) 櫻井賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：松原委員長、代理報告：安東庶務幹事）

櫻井賞選考委員会 松原委員長の代理として安東庶務幹事から、選考委員会の審議の結果、今回は「櫻井賞・櫻井賞奨励賞の候補該当者はなし」となったとの報告があった。

(7) 2025 年度 JMPS 学生論文賞授賞論文候補報告と審議

（報告：M. Satish-Kumar JMPS 選考委員長）

JMPS 学生論文賞選考委員会 Satish-Kumar 委員長より、2025 年度 JMPS 学生論文賞対象論文について編集委員会で投票の結果、受賞論文として下記 2 編を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

- 1) Mizuki TAKAHASHI, Shunsuke ENDO, Nobuhiko NAKANO, Tatsuro ADACHI: Origin and pyrometamorphism of gneissose granitoid xenoliths from the Daisen volcano, SW Japan: Implications for the San'in plutono-metamorphic complex.
- 2) Gen TAKAHASHI, Taiga OKUMURA, Takayoshi NAGAYA, Michio SUZUKI, Toshihiro KOGURE: Mineralogical aspects of asteriscus of goldfish (*Carassius auratus*) consisting of vaterite.

井上会長より、研究発表優秀賞選考委員会について、新委員長として石井貴之会員が指名され、了承された。あわせて、研究発表優秀賞選考委員会の委員構成について説明があった。本委員会は従来、委員 10 名（任期 2 年、毎年半数改選）で運営してきたが、昨年度は研究発表優秀賞へのエントリー数増加に対応するため、各セッションのコンビーナーから選出した委員を加えて運営した。その結果、今年度は 2 期目となる委員が 14 名となっていることが報告された。

今年度については、石井委員長が新たに 6 名程度の委員を指名し、委員会全体を約 20 名体制で運営する予定であることが説明された。なお、昨年度選出されたコンビーナー委員については、委員就任時に 2 年間の任期となることを了承いただいております、通常の委員と同様に 2 年任期で活動することが確認された。このため、今後はコンビーナー委員の選出状況によって新規委員数が年度ごとに変動することとなる。

これらの運用を踏まえ、委員会運営に関するガイドラインにおいて、コンビーナー委員と通常委員の位置付けを明確に区別する必要があるのではないかと提案があった。また、大藤理事より、ガイドラインには委員長の責任範囲および責任の所在を明確にする文言を盛り込むべきとの意見が出された。

審議の結果、石井委員長および瀬戸行事幹事を中心に関係者の意見を聴取しながらガイドラインの見直しを検討し、次回理事会に改正案を提案することとなった。

第 4 号議案 第 3 回定例理事会について（安東庶務幹事）

安東庶務幹事より、第 3 回定例理事会の日程について説明があった。

総会開催日程との関係から、会計監査および第 3 回定例理事会は、2026 年 8 月 26 日から 9 月 4 日までの間に実施する必要があることが説明された。会計監査については、2026 年 8 月 27 日 10 時から実施することが決定しているため、第 3 回定例理事会については、同年 8 月 28 日から 9 月 4 日までの期間内で開催することとし、詳細な日程は後日メールにより調整することが提案された。

審議の結果、これを承認した。

第 5 号議案 会員カテゴリーと倫理綱領について（中村特務幹事）

中村特務幹事より、将来構想委員会における検討結果に基づき、別途資料をもとに会員区分の見直しについて提案があった。新たな会員区分として「中高生会員」および「準会員」を設置する案について説明があり、審議の結果、これを承認した。これらの会員区分は、学会活動への参加を希望する個人を対象としたものであり、会費は準会員を年額 7,000 円、中高生会員を年額 1,000 円とすることが提案された。また、学生会員については複数年分の会費を一括して納入できる制度を導入し、2 年分を 7,000 円、3 年分を 9,000 円とする案が示された。

あわせて、新たな会員区分の導入に伴い、学校や研究機関等の組織に所属していない会員を受け入れる場合には、所属機関の倫理規程等に代わる学会としての行動規範を整備する必要があるとの説明があった。これまで本学会にはそのような規範が整備されていなかったことから、新たに行動規範を制定する方針が示され、案について説明が行われた。

審議では、入会時における同意書や免責事項の取り扱い、行動規範の適用対象を準会員等の新区分会員に限定するか、全会員を対象とするかといった点について意見交換が行われた。また、会員資格の位置付けや学会活動への参加範囲についても整理が必要であることが確認された。

審議の結果、会員区分の詳細および行動規範の内容については引き続き検討を行うこととし、中村特務幹事を中心に制度設計を進めた上で、8 月開催予定の第 3 回定例理事会に改めて提案し、承認を得ることとした。なお、その後 2026 年 9 月の総会において承認が得られた場合には、必要な事務手続きを経て速やかに新会員区分の募集を開始する予定であることが説明された。

第 6 号議案 Editorial Manager の予算変更について (M. Satish-Kumar 英文誌幹事)

Satish-Kumar 英文誌幹事より Editorial Manager 利用について、資料に基づき以下のような説明があった。

現在、科学技術振興機構 (JST) を通じて Editorial Manager を契約しているが、JST において新たな投稿システム導入および現行システムの利用条件変更が予定されていることが報告された。無料のベーシックタイプへの移行については、編集機能が大幅に制限され、現行の編集体制やジャーナル品質を維持できなくなるため困難であるとの説明があった。

JST 経由での新条件の Editorial Manager を使用する申請（現段階で条件や価格は不明）が通らなかった場合、現行の Editorial Manager の使用は 2027 年 9 月で終了し、引き続き現システムの使用には、代理店との直接契約が必要となる。その場合、年間約 30 万円の追加負担が見込まれる。

富岡会計幹事より、学会の現状の財務状況について説明があり、繰越金は約 600 万円であり、今年度の収支見込みを踏まえると 700～800 万円程度まで増加する可能性があること、さらに特定資産約 350 万円を保有しており、必要に応じて活用可能であることから、数年間は現システムを維持できる見通しが示された。

審議により、JMPS は学会の重要な刊行物であり、品質を維持した編集・出版体制を継続する必要があることから、代理店との直接契約が必要となった場合の予算増額を承認した。今後は、M. Satish-Kumar 英文誌幹事を中心に具体的な対応を進めることとなった。

第 7 号議案 2026 年度収支予算案の策定（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、2026 年度収支予算案について別紙資料に基づき説明があった。

2026 年度予算は 2025 年度予算をベースとして編成しており、繰越金取崩額約 57 万円を見込む赤字予算となっていることが説明された。会費収入については 2026 年 4 月 10 日時点の会員数を基に見積もっており、年会開催後の入会者増加による収入増については必要に応じて補正予算で対応する予定であることが報告された。また、近年は新事務局体制の下で年間 30～60 万円程度の赤字予算が継続していること、Elements 購読料の上昇が赤字増加の一因となっている可能性が示された。

収入については、GKK 関連収入を例年並みとし、JMPS では特集号の刊行を予定していることから、招待論文を除く約 400 ページ分として約 240 万円の出版収入を見込んでいることが説明された。年会収入については約 370 万円を計上しているが、年会は独立会計で運営されるため収支は均衡する見込みである。これらを含めた経常収入は約 1,286 万円を見込んでいる。

支出については、JMPS 特集号の刊行に伴い出版費および業務委託費が増加し、JMPS 関係経費は約 316 万円を計上していることが説明された。また、役員改選に伴う変更登記のため、司法書士への報酬 9 万円を新たに計上したこと、旧事務局関連の水道光熱費および地代家賃が不要となる一方で、ホームページ運用費の増額を見込んでいることが報告された。経常費用は約 1,344 万円を見込み、

全体として約 57 万円の赤字予算となることが説明された。

なお、前年度繰越金は約 780 万円を見込んでおり、JMPS 特集号による収益増加の可能性もあることから、学会財政は引き続き健全な状態にあるとの見解が示された。

審議の結果、2026 年度収支予算案は原案どおり承認された。

また、参考として 2025 年度予算の執行状況についても説明があり、会費収入の減少、GKK 編集業務委託費の増額、託児スペース設置に伴う男女共同参画推進費の新規計上等により約 63 万円の赤字予算となっているものの、2024 年度決算では約 60 万円の黒字を計上していることから、短期的な財政上の問題はないことが報告された。さらに、学会賞関連費用を特定資産から一般会計へ移行したことに伴い、特定資産関連科目については次年度以降整理する予定であることが説明された。

第 8 号議案 名誉会員推薦委員会の設置について（井上会長）

井上会長より、会員の適用総数に対して現在の名誉会員が 9 名であるため、4 名以内の名誉会員の追加が提案され、承認された。

さらにそのための名誉会員推薦委員会の設置が提案され、承認された。委員会のメンバー（5 名）は、会長および前会長を含め、残りは井上会長に人選を一任する。バランスが取れた人選になるように依頼があった。

来年度以降は、5 月の定例委員会で会員幹事が状況を確認し、追加を検討することが必要である。

その他

特になし

【9】 閉会

閉会 以上の議事を終え、16時30分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和 8 年 6 月 日

会長 井上 徹 印

副会長 中村 美千彦 印

監事 永井隆哉 印

(配布時押印省略)